

平成21年度
自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業

自閉症の特性に応じた教育をめざして



研究事業の概要

北海道では、特別支援教育に対するニーズの高まりなどから、特別支援学級に在籍する児童生徒数が増加しています。

小・中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級においては、児童生徒の発達段階や障がいの状態に応じた教育への期待が高まっています。

また、知的障害特別支援学校においては、自閉症のある児童生徒がこれまでの教育課程の中で、どのような力を身に付けてきたかを評価しながら、より自閉症の特性に応じた教育の在り方の検討が課題となっています。

北海道教育委員会では、文部科学省の委託を受け、北広島市立大曲東小学校、北広島市立大曲中学校、北海道札幌養護学校、北海道星置養護学校を実践研究校に指定して、自閉症の特性に応じた指導内容や指導方法の検討を行うなど、特別支援学級と特別支援学校における自閉症の特性に応じた教育課程の編成・実施・評価の在り方についての研究をすすめています。

北海道教育委員会
平成22年3月



学校生活でこのようなことはありませんか？

自閉症のある児童生徒には、周囲から「どうしてかな」、「なぜかな」と思われるような行動や様子が見られることがあります。このようなことは自閉症の特性を知っていると理解することができます。

人とかかわりなど

- ・休み時間は一人でいたい。
- ・グループ学習よりも一人学習が好き。
- ・冗談が通じにくい。 等

社会的相互交渉の質的障がい



会話やコミュニケーションなど

- ・場に応じた会話が難しい。
- ・たとえ話が苦手。 等

コミュニケーションの質的障がい

想像力や行動面など

- ・電話番号や時刻表など限られたものに強い興味がある。
- ・「もし〇〇なら」と実際にはないことを思えがくことが苦手。
- ・ままごとなどごっこ遊びは好きではない。 等

強いこだわりや固執行動・常同行動

この他にも、

- ☆予告なしのことにに対して混乱することがある。
 - ☆落ち着きがなく、多動なことがある。
 - ☆(視覚や聴覚等)の感覚が過敏なことがある。
 - ☆好き嫌いが激しいことがある。
 - ☆不器用で、道具が上手に使えないことがある。
 - ☆睡眠が不規則になりがちなことがある。 など、
- 学校生活において気になることはないでしょうか。



これらの症状が、乳幼児期（通常3歳以前）から続いている場合に、「自閉症」と診断を受けることがあり、発達障がいとして理解する必要があります。

自閉症の症状や行動特徴等の現れ方は、一人一人異なります。個性を尊重するとともに、個に応じた支援や配慮を考えていくことが大切です。

北海道札幌養護学校では、「自閉症等への対応ガイドラインVer.4」「構造化のアイデア実践集」を作成しました。

特性の理解、分かりやすく学ぶための工夫について示されています。

<http://www.sapporoyougo.hokkaido-c.ed.jp/>



学校ではどのような指導を行うとよいでしょうか？

学校では、自閉症のある児童生徒の実態に応じて必要な指導内容を設定する必要があります。

教科の学習

Aくんは、知的な遅れがないから、通常の学級の教科学習を個別に行おう！

Bさんは、学習の遅れがあるから、下学年の各教科に替えて指導をしよう！

Cさんは、通常の学級の教科学習の補充を個別で行おう！

Dくんは、特別支援学校の各教科に替えて指導をしよう！



人とかかわりの学習

人と上手に付き合えない自閉症の児童生徒は、教師との安定した関係を形成することが大切です。

少しずつやりとりを増やしながらか、人とかかわり方を学習することが必要です。



自分を理解する学習



他者が自分のことをどう見ているか、ということを理解することが難しい児童生徒にとって「自分がどのような人間であるか」という自己理解の学習が大切です。自分の得意な点、苦手な点の理解をしながら自己理解につなげていく学習が必要です。

気持ちの理解の学習

言葉や身振りで、相手の気持ちを読み取ることの難しい児童生徒は、言葉を字義通りに受け取ってしまいがちです。「この人は、この時どう思ったのかな？」など、立場や考えを推測するような学習が必要です。



身体の動きの学習

手足を協調させて器用に運動することに困難のある児童生徒は、簡単な動きから段階的に高度な動きを指導するなど、動きに関する指導をすることが効果的です。

手先の巧緻性を高めるため、道具等を使って手指を動かす体験をすることも必要です。



個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとするこのような教育活動を「**自立活動**」と言います。指導に当たっては、子どもの実態を把握し、個別の目標や指導内容を定め、指導計画を作成します。



学校で分かりやすく学習するために どのような工夫がありますか？

自閉症のある児童生徒は、視覚的な情報処理や動作を伴った活動が得意であること、覚えたことをそのとりに実行できることなど、学習に生かせる力をたくさんもっています。その反面、同時に二つ以上のことを意識内にとらえることや、いろいろな情報から全体像をとらえることなどが得意ではありません。学習活動を計画する際には、これらのことに配慮する必要があります。

日課の工夫

自閉症のある児童生徒が落ち着いて生活するために、見通しをもたせることを意識して、日課を工夫する必要があります。

◆1日の始まりを意識させる日課

場面の変化への対応が苦手な児童生徒が、スムーズに学習に取り組めるように、毎朝スタートする活動を同じにするなどの工夫もあります。



◆見通しをもちやすい日課

自閉症のある児童生徒は、予告なしの行事や、急な予定変更に対応できず不安になることがあります。前もって伝えたり、生活パターンの変化を少なくすることで、安心する場合があります。

また、一週間の予定を毎週同じように設定することも、見通しをもちやすくすることにつながります。



個別に使用する
スケジュールの例

北広島市立大曲東小学校の時間割は、「からだづくり」の時間を毎日1時間目に設定しています。

毎日同じ活動からスタートすることで、児童が見通しをもちながら自主的に活動に参加することができるようになってきました。

また、身体を動かす学習は、手指の巧緻性を高めるためにもたいへん有効な活動です。



北広島市立大曲中学校では、学校行事を交流及び共同学習の場として設定し、特別支援学級での個別指導の成果を生かす取組をしています。

自立活動の六つの区分から主に「人間関係の形成」「コミュニケーション」との関連を整理し、人の話を聞いて理解すること、場の雰囲気に応じて自分の意見を発表することを目指して、体育祭、合唱コンクール等の行事に取り組んでいます。



◆「動」と「静」を組み合わせた日課

時間割を考える際、体育や作業のような「動」的な活動と、着席して行う「静」的な活動を交互に組み合わせることは、児童生徒の学習に対する意欲、集中力を持続することにつながります。

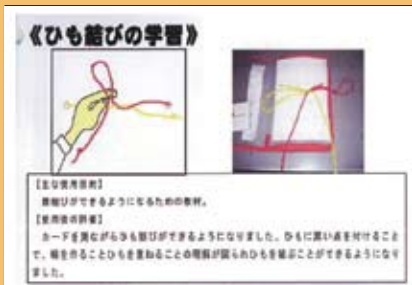
◆児童生徒の実態にあった交流及び共同学習

交流及び共同学習は、自閉症のある児童生徒が社会性やコミュニケーションを学ぶ場としてたいへん貴重といえます。実施に当たっては、どの学習の時間に、どのような集団と、どのようなねらいをもった交流をするのかを検討することが必要です。



教材・教具の工夫

自閉症のある児童生徒は、活動する時に視覚的な情報を手がかりとすることが得意なことから、教材・教具の中で色を使い分けたり、絵や写真などを使用することが効果的な場合があります。



「ひも結びの学習」：蝶結びができるようになるため、色違いのひもを使つての練習ができるようになっています。



「ものの名前の学習」：ひらがなと絵カードのマッチングをさせながら、ものと言葉の一致をさせる学習ができるように工夫されています。



「調理学習に活用した手順書」：調理で使うもの、手順、どのようにやるか、が見て分かるような手順書になっています。

北海道星置養護学校では、自閉症のある児童生徒の特性を生かし、効果的に学習を行うために、平成21年度「教材・教具集」を作成しました。「教材・教具集」の中では、教材の写真、使い方が示され、使用後の評価についても記録されています。

星置養護学校HP <http://www.hoshikiyouto.hokkaido-c.ed.jp/>

学習の中でこのようにかかわってください

教室内の余計な刺激を減らしましょう



周囲の刺激を選択して見たり聞いたりすることの苦手な子にとって、教室内の多くの刺激は、集中できない原因になってしまいます。教室をよく整理し、安心して学ぶことができる環境にしてあげましょう。例えば・・・

掲示物は少なめに・・・

掲示物は教室の後ろにはる

棚の物が見えないようカーテンを付ける

教師の声の大きさや教室内の音に配慮しましょう



教師の声も環境の一つです。聴覚の過敏な児童生徒は、大きく元気な声での指示を、怒られていると感じてしまうこともあります。優しく声を掛けることを心掛けてください。



どんな学習をするのか始める前に伝えましょう



これから始まる学習の内容や順番、学習時の約束事を“始める前に”提示しましょう。

がんばった活動の後には、楽しい活動を取り入れましょう



楽しい活動が次に用意されていることが分かると、少し難しい課題に対しても「頑張ってみよう」と見通しをもって取り組むことにつながります。

指示や説明は短く具体的に伝えましょう



言葉だけの指示では正しく伝わらないことがあります。絵や写真、文字カードなどを提示したり、実際にやって見せたりしながら具体的に伝えましょう。

学習では、「できた!」という達成感をもたせましょう



成就感、達成感をもたせるために、達成可能な目標を設定しましょう。「分かった」「できた」という経験が、次の学習の意欲につながります。



自閉症のある児童生徒は、話し合いや想像性が必要とされる学習において、十分に力を発揮することができないことがあります。また、感覚の過敏さがあるため、大きな声での指示や強引なかかわりで、パニックを起こしてしまうことがあります。自閉症のある児童生徒が安心して学習できるように、特別な配慮について一人一人に応じて検討しましょう。



保護者からのメッセージ



子どもたちは、生まれ育った地域でよりよい教育を受けたいと願っています。

自閉症の子どもたちを見かけたら、心の窓を開いて、“優しい言葉”で、“ゆっくり”“丁寧に”話しかけてください。

「力づく」の指導は、逆効果です。

生まれつきの発達障がいであることを分かってください。

自閉症特有の行動を温かく見守ってください。

平成21年度自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課

電話 011-204-5774 FAX 011-232-1049

自閉症のある児童生徒の教育に関する相談は北海道立特別支援教育センターへ

電話 011-612-6211(代表) 教育相談専用 011-612-5030